

科学系博物館活動等助成報告書

1. 事業課題名

「自然の世界と宮沢賢治」展における野外花壇の製作（19004）

2. 事業概要

ミュージアムパーク茨城県自然博物館で2019年10月から2020年2月まで開催した企画展「宮沢賢治と自然の世界」展に向けて、当館野外施設内に賢治設計の花壇を再現した。また、野外にある樹木や岩石に賢治の童話とのかかわりを示すパネルを設置した。

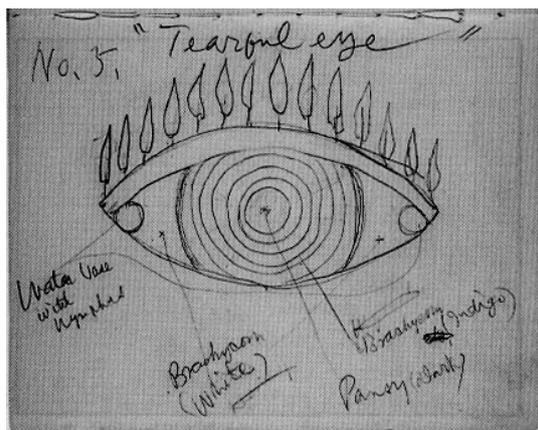
3. 代表者氏名・組織名・職名

氏名：鵜沢美穂子

組織名：ミュージアムパーク茨城県自然博物館 職名：副主任学芸員

4. 事業背景と目的

宮沢賢治は文学者であるだけでなく、自然科学や農学に造詣が深く、作品中に数多くの植物、岩石、動物等を登場させている。当館ではこれまで文学者をテーマとした企画展を開催したことはなかったが、宮沢賢治の作品を紹介することで自然への興味関心を深めることを目的に、企画展「宮沢賢治と自然の世界」を2019年10月12日（台風のため翌13日から開館）から2020年2月2日まで開催する運びとなった。宮沢賢治は農学に関連して、多くの花壇設計も手がけている。その中でも著名なのが、「tearful eye」と呼ばれる花壇である。現在、大きな規模でこの花壇を再現し、維持管理している機関は盛岡少年院だけであるが、盛岡少年院は一般には公開されていないため、この花壇を一般の人が目にする機会は殆どない。今回の企画展の事前広報としても非常に役立つと考え、宮沢家及び盛岡少年院から、この花壇を再現する了承を得て、企画展に先立ち、当館の野外施設内に花壇を再現することを計画した。また、野外施設全体も展示の一部とし、より自然に親しんでもらうことを目的として、野外施設内の樹木や岩石に看板を設置し、植物・岩石名を記すとともに、その自然物が登場する宮沢賢治の作品の一節を紹介した。あわせて、看板設置場所を記すマップを作成し、来館者に無料で配布した。



盛岡少年院に造成された宮沢賢治の花壇「tearful eye」

←宮沢賢治の花壇「tearful eye」の設計図
（『新校本宮澤賢治全集』第十三巻本文篇より）

5. 事業実施内容

●事前準備（2019年3月13日） ※助成金予算外

当館野外施設内の「花の谷」に、花壇「Tearful eye」の土台となる土盛りを行った。



●花壇造成第1期（2019年4月22～24日）

花壇「Tearful eye」の造成を開始した。瞳の部分にマリーゴールド、睫の部分にコニファー（エメラルドグリーン）を植栽し、下まぶたの部分にはレンガを配列した。涙腺の部分には水瓶を設置し、スイレンを入れた。解説版を設置し。宮沢賢治設計の花壇である旨と、企画展の開催予告を記した。花壇造成は、株式会社川上農場（つくばみらい市）に委託した（以下の造成も同様）。



●花壇造成第2期（2019年7月～10月）

7月に結膜（白目）の部分にヒヤクニチソウを播種し，瞳中央にニチニチソウを植栽した。ヒヤクニチソウは8月に開花し，以降連続して開花が見られた。10月7日に水瓶を大型のものに入れ替え，瞳の中央以外の部分にブラキカムを植栽した。10月13日より企画展を開催し，それにあわせて看板を更新した。



8月1日



10月9日



看板の更新

●花壇造成第3期（2019年10月28日，1月22日）

10月に白目の部分において白花のパンジーへの植え替えを行った。1月には瞳中央の部分においてビオラへの植え替えを行った。宮沢賢治の設計図には，ブラキカム，パンジーの記載があり，植栽位置の違いはあるが，この時期が設計図に最も近い植栽となった。



10月28日



12月4日



1月22日

●企画展示室内における花壇の紹介

企画展開催中、展示室内において、花壇造成の様子を動画で紹介した。



●野外看板及びマップの作成

企画展開催日より、当館野外施設内にある宮沢賢治作品に登場する植物と岩石に看板を設置するとともに、マップを作成して無料配布した。看板には、和名、分類、写真、宮沢賢治作品内の一節を記した。



野外に設置した看板



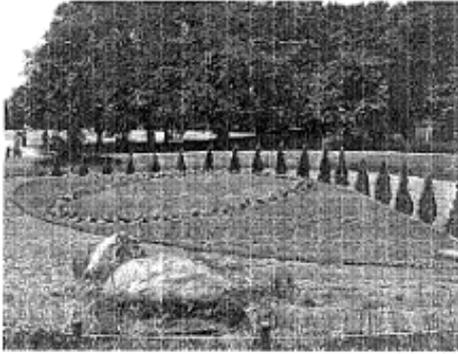
マップ

6. 事業の成果

今回の事業の成果の一つに、インパクトのある形の花壇を造成することにより、本企画展への興味関心が高まり、広報に大きく貢献したことが挙げられる。会期中の総入館者数は12,1305人で、前年度同時期の企画展の入館者（12,1121人）を僅かに上回る人数となった。会期中の入館料収入は3,034万円で、前年度の2,884万円より7%ほどの増加がみられた。これは、企画展「宮沢賢治と自然の世界」が、無料で入館する県内の学校団体や未就学児ではなく、大人の有料入館者数が多かったためであると考えられる。企画展「宮沢賢治と自然の世界」では、台風19号の影響で、10月12日のオープニングセレモニーが行えなかったことに加え、初日と2日目の午前中が閉館となった。最も宣伝効果のある日が閉館となり、大幅な入館者及び入館料の大幅な減少が予想されたことを考えると、本企画展の総入館者数及び入館料収入は予想を大きく上回るものであった。この結果の要因の一つに、本事業の花壇を含め、主に大人へ向けた広報の成果があるのではないかと考えられる。企画展について、開催前にメディアへの掲載が行われることは当館ではこれまでほとんど無かったが、今回、開催約4か月前に花壇整備について新聞掲載が行われた。また、宮沢賢治の愛好者が東北などの遠方から当館に訪れた例も多くあった。このように、企画展の成果とともにこの花壇設営の成果は、当館に来館したことのない人の来館の機会を創出できたことにあると考えられる。このことが、博物館の知名度を上げ、今後の入館者の増加にも繋がるものと期待している。

賢治設計の花壇整備

県自然博物館（坂東市）



企画展に合わせ、専治賢治が設計した花壇「Tearful eye」の整備が進む。坂東市大庭の県自然博物館

9/29(土) 12:30

県内外から年間約50万人が訪れる人気施設「ミュージアムパーク県自然博物館」。公益財団法人を主催して、第10回企画展は「狩ハント」

「狩」展は、タカやワクロウ、食虫植物など狩りをする動物を紹介。世界最大級の食虫植物「ネペンテス・ラシヤ」の実物大模型や、タカミを捕らえたアン、フクロウなど、臨場感あふれる複製を多数展示する。

「専治賢治」展では、真珠作家で鳥学者の原沢賢治が設計した花壇「Tearful eye」の整備も予定している。施設ではそのほか、野外で自然観察や体験活動を実施している。7月はアササイやネムノキ、8月はサルスベリやヒメワリなどを中心に開催することができ、問い合わせは同展覧会0297-380000

茨城新聞 6月29日

野外マップと看板については、多くの来館者がマップを手にして野外を見学する様子が見られた。展示室内では見ることができない、自然に生育する樹木や巨大な岩石を実際に見に行く機会を誘導することができ、学びを深められたことは、成果の一つであると思われる。

花壇については、次年度以降も当館の予算で植物の植え替えを行い、Tearful eyeの形を継続することになった。企画展示室の展示物は会期が終わると全て撤去せざるを得ないが、このような形で野外に企画展で制作したものが残すことができたことも含め、当館にとって大変意義のある事業であった。